謹賀新年

銚子市長　越川信一

あけましておめでとうございます。健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年は、3年ぶりに「銚子漁港年間水揚げ量日本一」に返り咲くという、おめでたい話題で年が明けました。銚子漁協をはじめ関係皆さまの努力の賜物です。改めて敬意を表するとともに感謝を申し上げます。銚子の漁業のさらなる飛躍と安全航行・安全操業を祈念します。

銚子市では、ふるさと納税の拡大に取り組んでまいりました。令和4年度に市職員と民間事業者の合同チーム「ふるさと納税推進タスクフォース」を設置。「銚子市ふるさと納税推進ビジョン」を策定して、中間事業者の一元化、魅力あふれる返礼品づくり、ポータルサイトでの効果的な情報発信などを行いました。その結果、銚子市へのふるさと納税寄付額は令和4年度の3億円、5年度の7億円から、6年度は26億5千万円に増加し、千葉県内で1位になりました。ふるさと納税寄付金を「子ども未来基金」に積み立て、子どもたちの給食費や0歳からの保育料の無償化を実現しています。令和7年度は11月にふるさと納税による寄付が50億円に達しました。今年度末までに70億円の寄付を見込んでいます。基金に積み立てながら、子育て支援のほか、市庁舎など公共施設整備の財源などにも有効活用してまいります。

昨年10月、庁内に「銚子市庁舎等公共施設整備基本構想検討会議」を設置しました。施設の老朽化や耐震性不足といった共通課題、集約化・複合化の必要性などを考慮し、市庁舎、青少年文化会館のホール機能、公正図書館、中央地区コミュニティセンター、勤労コミュニティセンターなどを対象に、基本構想の策定を進めてまいります。

三菱商事グループの洋上風力発電事業撤退を受け、千葉県主催の「銚子地域の未来創造会議」において、これまで取り組んできた三菱商事との連携協定に基づく地域振興策などを議論してきました。引き続き、三菱商事との地域振興の各種取組を継続していく方針です。

国では現在、審議会などで洋上風力発電事業を確実に実現させるための事業環境整備の議論を行い、公募制度の見直しを進めています。新たな公募制度に基づき、次の発電事業者が速やかに選定されるよう、引き続き、国に求めてまいります。

令和8年4月に千葉科学大学の運営は、これまでの加計学園から、沖縄県名護市に本部を置く大城学園に移行します。大城学園が運営する名護市のエナジックスポーツ高等学院は、「世界へ翔く、トップアスリート・グローバル人材の育成」をスローガンに、各種スポーツに大変力を入れています。スポーツ振興や防災の取組など、積極的に連携を図ってまいります。

今後も少子化による大学の厳しい経営環境は続きますが、多くの学生が集まるよう、銚子の魅力を発信し、官学連携を推進してまいります。

銚子二中出身の早稲田大学山口智規選手が、最終学年、チームキャプテンとして、箱根駅伝に参加します。快走を願っています。

本年が皆さまにとって幸多き年でありますようご祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。